

## ▶ 第2章

# 中日米海洋政策の緊張と過剰防衛の悪循環 ——国内法と国際法の交錯

上海交通大学日本研究センター 副研究員

鄭志華

### 【ポイント】

- ▶ 中国の台頭と国力の増強に伴い、米国は中国が軍事、法執行、外交などの行動で米国の西太平洋における主導的地位を弱めていると感じている。日本は中国の台頭によって自らの安全と国際的地位が損なわれることを心配している。近年、東シナ海、台湾海峡、南シナ海のいずれの方面でも、各国が海上の力を高め、アップグレードし続けており、互いに接触し、摩擦が発生する確率が大幅に増加している。
- ▶ 中米と中日の間には一定の連絡メカニズムとコミュニケーションのパイプがあるが、ルール、現状、政策、戦略意図などに関する互いの認識に偏りがあるため、それぞれが防衛力と海上警備を強化し、安全保障のジレンマに陥る恐れがある。米日の焦りが中国の海洋政策への様々な誇張・解釈をもたらす一方、中国は「権利保護」と「安定維持」という国内用語の論理にはまり、米、日と効果的な意思疎通ができなくなっている。
- ▶ 中日米が海洋政策の緊張と過剰防衛の悪循環に陥っている理由には、大国の台頭による国際情勢の構造的変化の影響だけでなく、イデオロギー的な偏見や冷戦的思考の継続という要素もある。国内の政治的矛盾と危機管理を転嫁する要素や政策伝達、リスク・コミュニケーション、危機管理メカニズムの欠陥による誤解もある。中日米はお互いの合理的関心を尊重し、相互刺激を避け、より高度な危機管理対話を展開すべきである。



注目データ

3カ国の防衛意図の表現と伝達の構図

